

第89期株主通信

2014.4.1 ▶ 2015.3.31



証券コード：6863

制御・検査装置のパイオニア

ニレコは「技術と信頼」の理念の下、様々な分野で貢献してまいります。

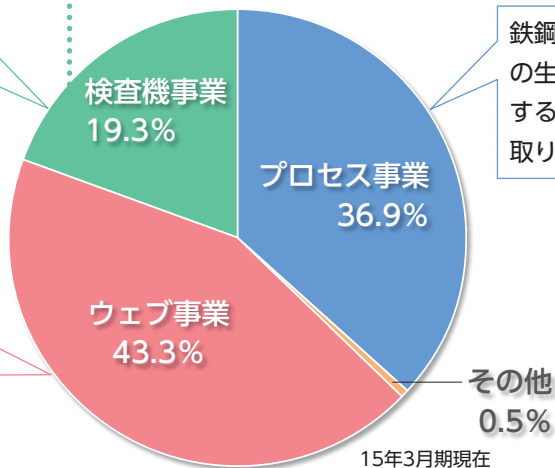
売上構成

Pick UP 9Pで詳細をご紹介します

当社が40年以上にわたり培ってきた画像処理技術をベースに、電子機器材料から農産物に至るまで幅広い製品を対象とした検査装置を取り扱う事業

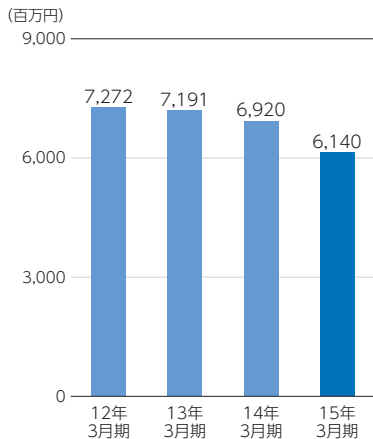
製紙・印刷から電子機器材料まで広範な業種を対象に、シート状製品の位置制御装置などを取り扱う事業

鉄鋼・非鉄金属や化学などの生産ラインを主な対象とする制御装置や計測装置を取り扱う事業

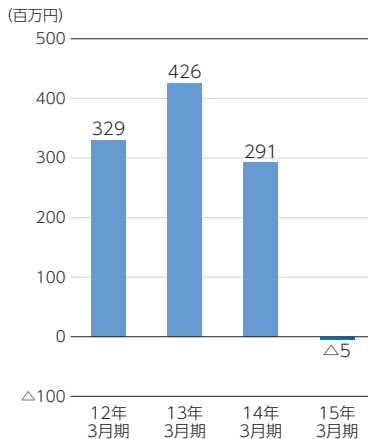


業績ハイライト

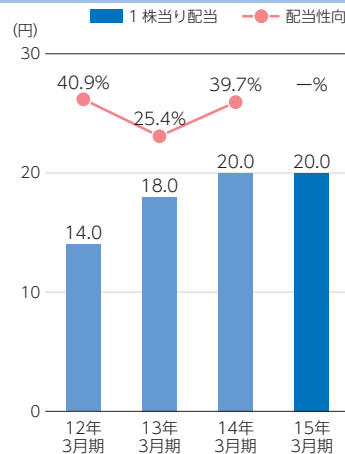
売上高



営業利益



1株当たり配当・配当性向



代表取締役社長

久保田 寿治



2015年6月25日付で
代表取締役社長に就任いたしました
久保田 寿治でございます。

● 当期を振り返って

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年3月31日をもって終了しました第89期の業績結果をご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、世界経済が概ね堅調に推移する中、円安の進行や原油価格の下落など先行きに不透明感が残るものの、消費税率の引き上げに伴う個人消費の低迷を脱し、緩やかな回復基調が続きました。

当社グループの主要取引先であります印刷業、紙加工業、電子部材メーカー、鉄鋼業及び化学工業などの設備投資に向けた動きは、一部業種に表れたものの、市場動向を見極めたいという姿勢が根強く、想定以上に厳しい状況となりました。

このような状況の下、当社グループは高機能フィルム向け制御・検査装置や選果装置などを高い成長が期待できる分野として開発・販売に注力するとともに、鉄鋼や印刷などの成熟した市場においても新たな展開によるニーズの創出に努めましたが、売上高6,140百万円（前期比△11.3%）、営業損失5百万円（前期は営業利益291百万円）、経常利益66百万円（前期比△81.6%）となりました。また、特別損失として、社屋建て替えに伴う旧社屋解体費用（固定資産除却損）66百万円を計上したため、当期純利益は9百万円（前期比△97.5%）となりました。

なお、期末配当金につきましては、安定配当の継続を最優先し、1株当たり10円とさせていただきます。中間配当金と合わせ、20円となります。

● 次期の見通しについて

次期の見通しといたしましては、米国経済が好調に推移する一方で、欧州や中国経済の減速懸念などもあり、世界経済の先行きに不透明感が強まっております。また、わが国経済においては、為替相場の変動や原油安の継続などによる景気への影響が懸念されます。従いまして、設備投資の動向につきましても予断を許さない状況が続くものと想定しております。

このような状況において、当社は経営陣の若返りを実施しました。次期以降は新たな経営陣で、いかなる環境下においても成長できる事業ポートフォリオの構築及び経営体質の更なる強化を進め、企業価値の向上に取り組んでいきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

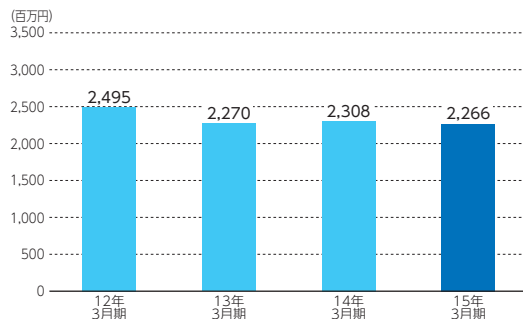
2016年3月期連結業績予想

（単位：百万円）

	金額	前期比
売上高	7,400	+20.5%
営業利益	430	-%
経常利益	460	+590.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	300	-%

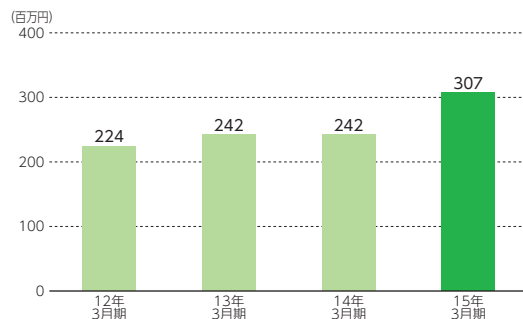
プロセス事業

■ 売上高



1.8%

■ セグメント利益



26.5%

当事業の主要取引先であります国内鉄鋼業界においては、国内設備は修理や更新を中心とし、戦略的観点から海外新規設備投資に注力しました。また、海外鉄鋼業界においては、高級鋼材向け設備投資で動きがありました。このような状況の下、当社グループは、国内においては、生産の維持に必要な設備の修理、更新、部品販売といったメンテナンス需要の取り込みにも注力するとともに、鉄鋼製品の品質と生産効率の向上につながる新製品群の積極的な提案に努めました。一方、海外においては、国内での信頼と実績をアピールし、新規顧客の獲得に注力しました。また、韓国市場の本格開拓を目指して新たに設立した韓国子会社が下期後半より営業活動を開始しました。

その結果、当事業の売上高は2,266百万円（前期比△1.8%）、セグメント利益は307百万円（前期比+26.5%）となりました。また、受注高は2,378百万円（前期比+1.5%）となりました。

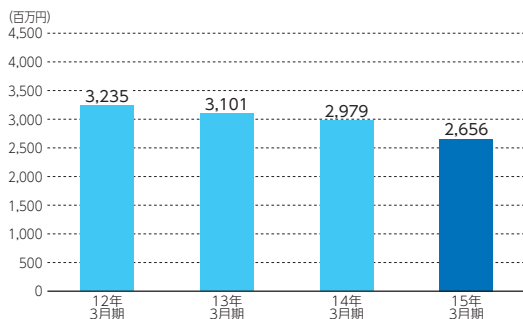
次期の展望

当事業の主要取引先である鉄鋼業界は、国内については更新を中心とした設備投資が続き、海外については、当面、鉄鋼製品の供給過剰により新規設備投資の機会は限られたものになると想定しております。このような状況の下、当社グループは、国内においては、

既存設備の更新や改修のみならず、品質と生産効率の向上に貢献する新製品群を提案することにより顧客の潜在ニーズを捉えて受注の拡大を図ります。また、海外においては、現地販売及びサービス網を充実させるとともに、高級鋼材メーカーを対象に国内での信頼と実績をアピールし、海外市場の拡大を目指します。

ウェブ事業

売上高



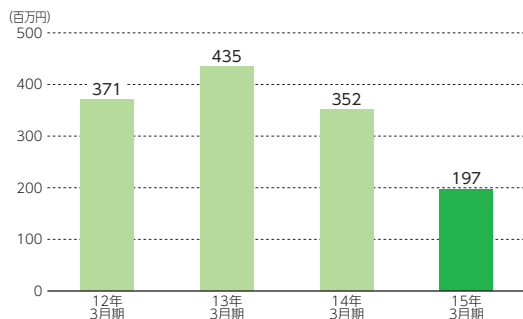
10.8%

当事業の主要取引先であります高機能フィルム業界は、中小型液晶パネル向け部材の生産は引き続き好調なものの、新規設備投資に関しては慎重な傾向が続きました。このような状況の下、当社グループは、コストダウンした耳端位置制御装置の新製品などを中心に積極的な営業活動を展開しましたが、前年同期の売上高を下回りました。

もう一方の主要取引先であります印刷業界は、商業印刷市場が大変厳しい状況にある中、当社グループは、食品包装資材や特殊印刷向けに印刷品質検査装置や糊付け装置の営業活動に注力しましたが、前期の売上高を下回りました。

その結果、当事業の売上高は2,656百万円（前期比△10.8%）、セグメント利益は197百万円（前期比△43.8%）となりました。また、受注高は2,331百万円（前期比△22.8%）となりました。

セグメント利益



43.8%

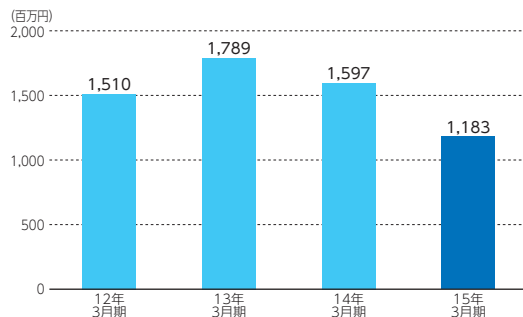
次期の展望

当事業の主要取引先である高機能フィルム業界は、中小型液晶パネル向けを中心に引き続き需要の伸びが期待されますが、新規設備投資については抑制傾向が続くものと想定しております。また、印刷業界は商業印刷市場が引き続き厳しい状況で推移するものと想定

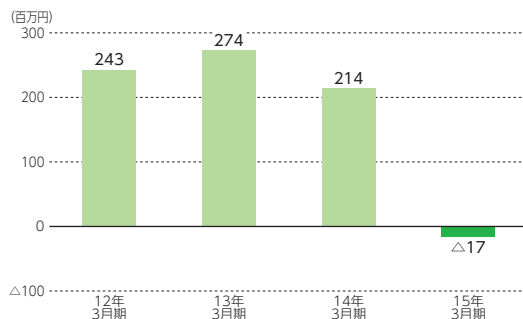
しております。このような状況の下、当社グループは、タイムリーな新製品の投入及び包装資材など対象市場を絞り込んだ営業展開によりシェアの拡大を目指します。

検査機事業

■ 売上高



■ セグメント利益



当事業の主要製品であります無地検査装置は、中小型液晶パネル向け高機能フィルム品質検査のニーズに対応し、処理能力を大幅に向上させた新型機を中心とした営業活動に注力しました。しかしながら、総じて高機能フィルム業界の設備投資に慎重な傾向が続いた影響から、想定した売上高の伸びには至りませんでした。また、将来における二次電池市場の本格的な設備投資需要を捉えるべく電極シート検査装置の新型機を第4四半期に投入しました。

もう一つの主要製品であります選果装置は、下期に入り徐々に顧客からの引き合いが増加したものの、農業関連予算の執行が進まない中で受注が不調であったことから、前期の売上高を大幅に下回りました。

その結果、当事業の売上高は1,183百万円（前期比△25.9%）、セグメント損失は17百万円（前期はセグメント利益214百万円）となりました。また、受注高は1,475百万円（前期比+10.6%）となりました。

次期の展望

当事業の主要製品である無地検査装置は、主に中小型液晶パネル向け高機能フィルムを対象に引き続き新型機の拡販に注力するとともに、製品ラインナップの充実による対象市場の拡大を図ります。また、電極シート検査装置は、二次電池市場の本格拡大を期して新型機の拡販に注力し、シェアの獲得に努めます。

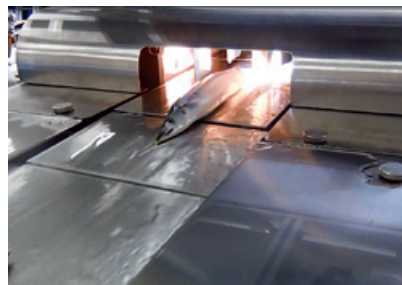
もう一つの主要製品であります選果装置は、国内において、農業関連予算の執行期を確実に捉えて受注を増やすとともに、海外においても市場拡大に向けた営業活動を進めます。また、前年度投入した漁業関連市場をターゲットとした選魚装置、包装資材市場をターゲットとした製袋検査装置の市場開拓を進めていきます。

韓国に販売会社を設立

プロセス事業の海外市場拡大戦略の一環として、昨年11月、韓国・慶州市に新たな販売・保守サービス会社 Nireco Process Korea Co., Ltd.を設立しました。同社の設立により現地での顧客対応の質とスピードを向上させ、プロセス事業の売上規模拡大を目指していきます。

漁港にて選魚装置のデモ稼動実施

昨年、サンマの漁期にあたる秋から冬にかけて、岩手県大船渡市の加工業者様にて魚品質検査装置QG-100による選別出荷の実証デモを実施しました。同装置は魚の粗脂肪を非破壊で検査し、その含有量に応じて固体を仕分けるこれまでにない新しいコンセプトの製品です。今回のデモは、独立行政法人水産総合研究センター主導の下、震災からの復興を支援するプロジェクトの一環として参加したのですが、期待以上の効果を発揮し、製品のメリットを実感していただくよい機会となりました。今後も様々な活動を通じて製品の認知向上を目指していきます。



社屋の一部建て替え、耐震補強工事が完成

昨年度の株主通信でもお知らせしたとおり、本店社屋の一部老朽化による建て替えが予定どおりに完成しました。建物自体は昨年12月末に竣工・稼動しておりますが、その他建屋の耐震補強工事、旧社屋の解体や付帯設備の構築などを経て、この5月にすべての工事が



枠内が新社屋

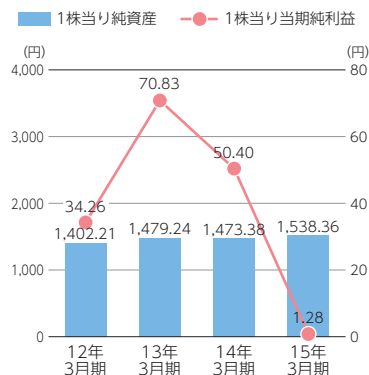
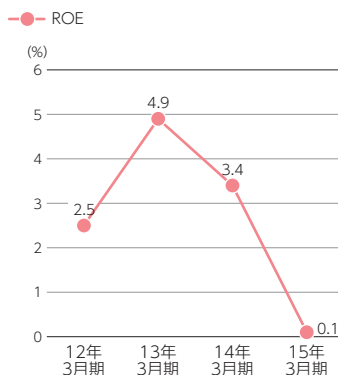
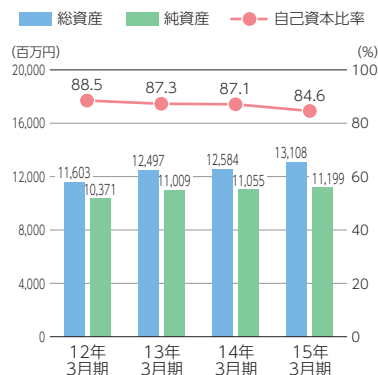
無事に終了しました。これら環境整備により、社員の安全確保のみならず、機能の集約・設備の充実による社員間の交流が以前にも増し、業務の効率化につながっております。

連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	15年3月期	14年3月期
(資産の部)			
流動資産		9,235	9,752
固定資産		3,873	2,832
有形固定資産		2,258	1,203
無形固定資産		118	123
投資その他の資産		1,496	1,505
① 資産合計		13,108	12,584
(負債の部)			
流動負債		1,203	999
固定負債		704	530
② 負債合計		1,908	1,529
(純資産の部)			
株主資本		10,926	11,018
資本金		3,072	3,072
資本剰余金		4,124	4,124
利益剰余金		5,055	4,982
自己株式		△1,326	△1,160
その他の包括利益累計額		159	△53
新株予約権		30	22
少数株主持分		84	67
③ 純資産合計		11,199	11,055
負債純資産合計		13,108	12,584



Check Point

① 資産

前期末に比べて523百万円増加し13,108百万円となりました。これは主に自己株式の取得、新社屋建設に関する中間金等の支払などによる現金及び預金の減少611百万円、投資有価証券の売却による減少66百万円、破産更生債権等の減少49百万円、繰延税金資産の減少28百万円などがあったものの、当社新社屋建設に関する建設仮勘定の増加1,037百万円、受取手形及び売掛金の増加136百万円、退職給付に係る資産の増加98百万円などがあった事によります。

② 負債

前期末に比べて378百万円増加し1,908百万円となりました。これは主に退職給付に係る負債の減少321百万円、工事損失引当金の減少32百万円、未払費用の減少25百万円、役員賞与引当金の減少24百万円があったものの、当社新社屋建設に関する資金調達を主な理由とした長期借入金金の増加548百万円、流動負債その他の増加100百万円、支払手形及び買掛金の増加48百万円、繰延税金負債の増加79百万円、未払消費税等の増加35百万円があった事によります。

③ 純資産

前期末に比べて144百万円増加し11,199百万円となりました。これは主に自己株式の取得による増加189百万円、配当金の支払150百万円があったものの、「退職給付に関する会計基準の適用」による利益剰余金期首残高の増加214百万円や退職給付に係る調整累計額の増加134百万円、為替換算調整勘定の増加49百万円、その他有価証券評価差額金の増加32百万円、自己株式の売却による減少23百万円があった事によります。

連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	15年3月期	14年3月期
売上高		6,140	6,920
売上原価		4,105	4,715
売上総利益		2,034	2,205
販売費及び一般管理費		2,040	1,913
営業利益又は営業損失 (△)		△5	291
営業外収益		100	82
営業外費用		28	12
経常利益		66	361
特別利益		29	158
特別損失		66	41
税金等調整前当期純利益		29	478
法人税、住民税及び事業税		15	34
法人税等調整額		7	68
少数株主損益調整前当期純利益		7	375
少数株主利益又は少数株主損失 (△)		△2	1
当期純利益		9	373

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	15年3月期	14年3月期
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー		100	1,093
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー		△905	111
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー		210	△185
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		△569	1,069
現金及び現金同等物の期首残高		4,643	3,574
現金及び現金同等物の期末残高		4,074	4,643

Check Point

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は100百万円（前期比992百万円の減少）となりました。これは主なフローアウトに売上債権の増加126百万円、投資有価証券売却益49百万円、未払費用の減少25百万円などがあったものの、主なフローインとして税金等調整前当期純利益29百万円、減価償却費150百万円、固定資産除却損82百万円、仕入債務の増加46百万円などがあった事によります。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は905百万円（前期は111百万円の収入）となりました。これは主に定期預金の払戻による収入388百万円、投資有価証券の売却による収入227百万円などがあったものの、当社新社屋建設に関するものを主な理由とした固定資産の取得による支出1,169百万円、定期預金の預入による支出336百万円などがあった事によります。

⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は210百万円（前期は185百万円の支出）となりました。これは主に自己株式の取得189百万円、配当金の支払150百万円、長期借入金の返済51百万円があったものの、当社新社屋建設に関する資金調達を主な理由とした長期借入金600百万円があった事によります。

検査機事業

検査機事業は、当社の強みであるセンサと画像処理技術を駆使し、人間の目では認識が困難な小さなキズや汚れなどを高速・高分解能（分解能とは、機械・装置で物理量を識別できる能力のこと）で検査する装置をご提供しております。

これらの技術は、印刷業向けに印刷物の網点計測をするため、また、鉄鋼業向けにステンレス鋼板の結晶粒度を測定するために開発した技術が基となっております。その後、様々な顧客の要望に応えながら研究開発を進め、40年以上の長きにわたり技術を蓄積してきました。現在では、高性能フィルムから農漁産物に至るまで幅広い対象物に対応した製品ラインナップを取り揃えております。

[代表的製品のご紹介]



無地表面検査装置

連続して高速で生産される高性能フィルム、紙や金属などといった無地素材のキズ、汚れなどを検査する装置・システムです。より高度な機能が求められる二次電池や燃料電池といった次世代蓄電池の電極シート検査装置もあります。



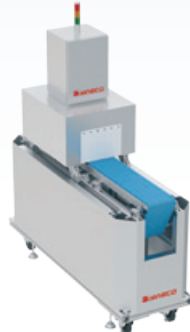
選果装置

農産物の品質を、外部（色合い、サイズ、キズ、腐敗など）、あるいは内部（糖度、酸度）状態により瞬時に非破壊で判別する装置・システムです。



選魚装置

魚の種類、脂肪含有量を瞬時に非破壊で判別する装置・システムです。人手を介することなく選別できるため、迅速かつ衛生的な選別作業が可能です。



製袋検査装置

例えば食品や薬品などに使われる包材のキズや汚れのみならず、その内部に混入した異物の検出も可能な検査装置です。



株式の状況

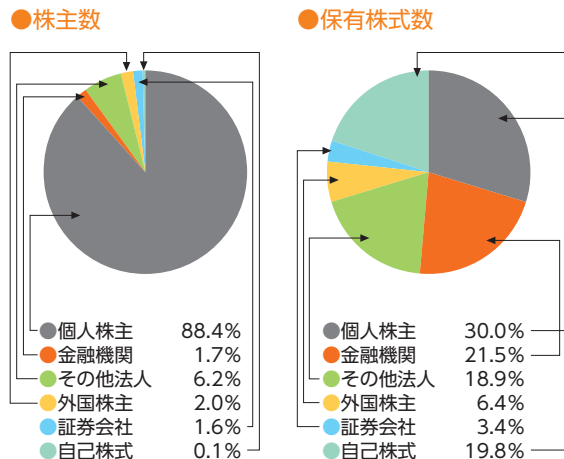
株式の状況 (平成27年3月31日現在)

発行可能株式数： 39,400,000株
 発行済株式の総数： 9,205,249株
 株主数： 838名
 大株主：

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託新日鐵住金退職金口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	790	10.7
極東貿易株式会社	469	6.4
ニレコ取引先持株会	468	6.3
株式会社東京都民銀行	364	4.9
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	302	4.1
クレディ・スイス証券株式会社	302	4.1
浅井美博	238	3.2
住友金属鉱山株式会社	231	3.1
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	194	2.6
ニレコ従業員持株会	188	2.6

(注) 上記以外に、当社は自己株式1,826,171株を保有しております。なお、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



会社情報

会社の概要 (平成27年3月31日現在)

商号：株式会社ニレコ
 英文商号：NIRECO CORPORATION
 本店所在地：東京都八王子市石川町2951番地4
 設立：昭和25年11月
 資本金：3,072百万円

役員 (平成27年6月25日現在)

会社における地位	氏名	担当又は主な職業
代表取締役社長	久保田 寿 治	CEO
取締役 ※1	河 西 辰 雄	生産管理部門長 兼ミヨタ精密代表取締役社長
同 ※1	碓 光 司	管理部門長
取締役	川 路 憲 一	相談役
取締役 ※2	中 野 厚 徳	
常勤監査役	田 邊 寛 一 郎	
監査役 ※2	林 光 彦	
監査役 ※2	古 君 修	

※1 執行役員を兼任しております。
 ※2 会社法に定める社外取締役および社外監査役です。

執行役員

藤原 利之 尼利可自動制御機器 (上海) 有限公司董事長兼仁力克股份有限公司董事長
 小林 正明 検査機事業部長
 三浦 誠 プロセス事業部長
 大澤 祐二 ウェブ事業部長

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会
開催時期 6月下旬

定時株主総会議決権
行使株主確定日 3月31日

期末配当金受領
株主確定日 3月31日

中間配当金受領
株主確定日 9月30日

法定公告は次のURLに掲載しております。
<http://www.nireco.jp/ir/notice/index.html>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

○同事務取扱場所
〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

○郵便物送付及び電話照会先
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

2015年4月、当社ホームページをリニューアルいたしました。



今回のリニューアルでは、利用者の皆様が知りたい情報をより簡単に見つけられるように情報を整理するとともにコンテンツを拡充いたしました。今後も株主・投資家の皆様にとって、より分かりやすく利便性の高いホームページを目指してまいります。多数のアクセスをお待ちしております。

URL:<http://www.nireco.jp>

株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6863

いいかぶ

検索

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjfm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。
- ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

株式会社ニレコ

〒192-8522 東京都八王子市石川町2951番地4
電話 042-642-3111 (代表)

UD
FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

